

民間給与実態統計調査を用いた日本の賃金動向分析 及び再就職市場における賃金の変化

日本の所得分配・再分配に関する研究会

川田恵介

東京大学

keisukekawata@iss.u-tokyo.ac.jp

2025-11-06

1 日本の賃金の変化

1.1 労働市場

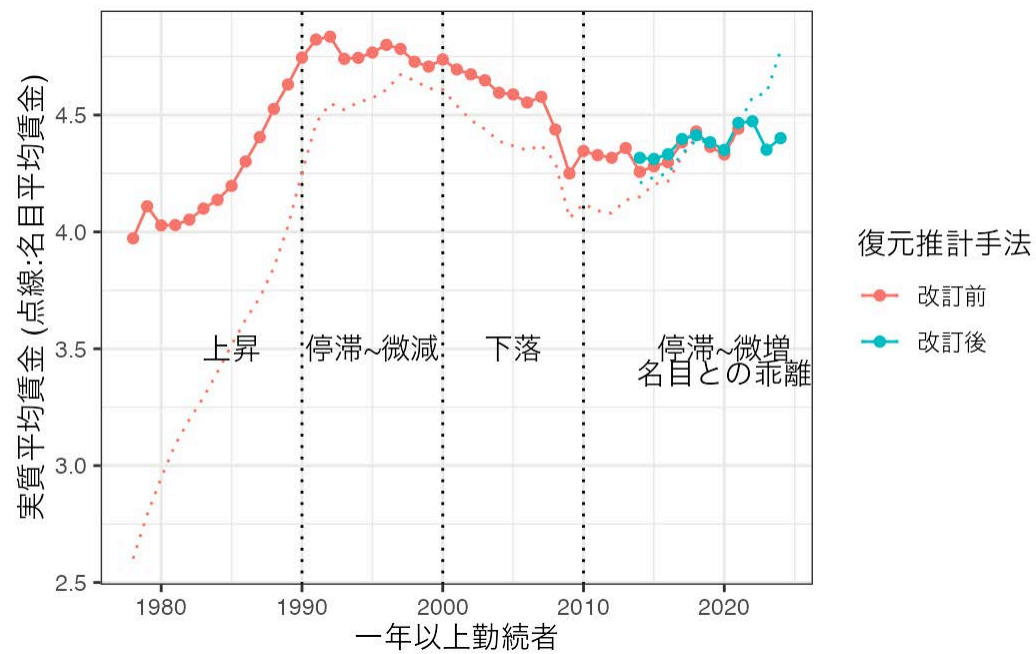
- 2010年代において、少子高齢化の進行と就業率の上昇が同時に生じ (Kawaguchi, Kawata and Toriyabe, 2021)、コロナ後も大きなトレンドは変化していない
 - ▶ 米国などとは対照的な傾向 (Abraham and Kearney, 2020)
- 賃金は停滞傾向 (玄田, 2017)

1.2 データ

- 民間給与実態統計調査(国税庁)の公開・集計値¹
 - ▶ 事業所が対象とした調査統計
 - 本分析では、1年以上勤続者のみ利用
 - ▶ 毎月勤労統計調査/賃金構造基本統計調査などは、零細企業を含まない
 - 平均賃金を過大に算出 (川口, 2013; 総務省, 2021)
- 家計に対する調査(労働力調査、就業構造基本統計調査)に比べて、回答される給与水準の信頼性が高い

¹統計表 3-10, 2022年より復元推定方法が変更 (<https://www.nta.go.jp/publication/statistics/kokuzeicho/minkan2022/minaoshi.htm>)

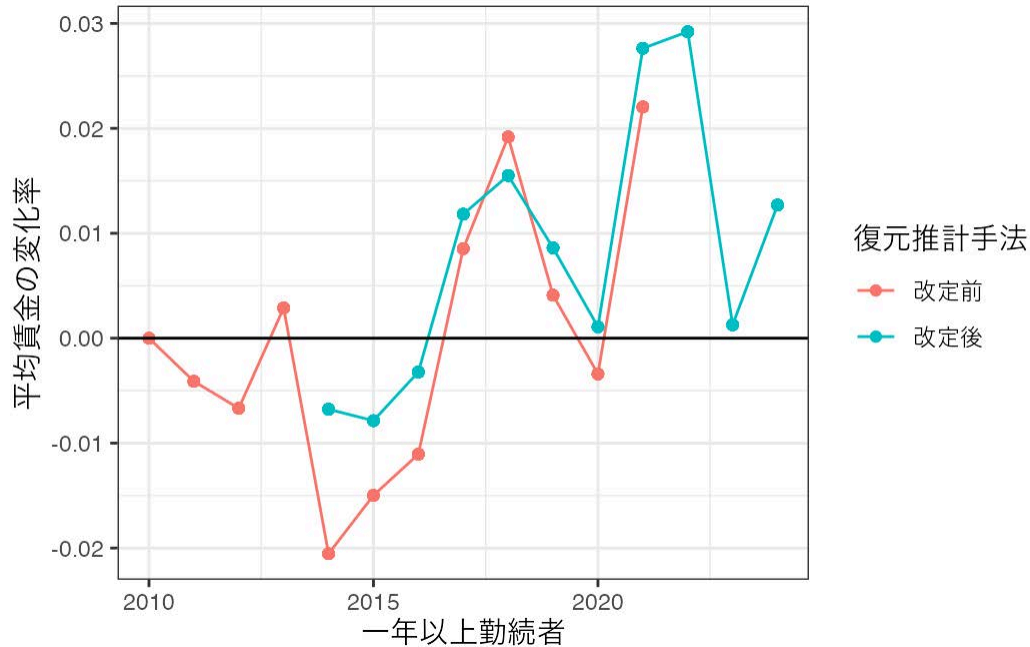
1.3 実質平均賃金の推移



1.4 実質平均賃金の変化率

- 変数について、共通の定義を用いるために 2010 年以降に分析を限定
- 2010 年を基準年とした平均賃金の変化率
- $$= \frac{t\text{年の平均実質賃金} - 2010\text{年の平均実質賃金}}{2010\text{年の平均実質賃金}}$$

1.5 変化率



- 2024 年時点では、2010 年に比べて、1.3 % 程度増加

1.6 属性変化

- 就業者の属性 (性別、年齢) も年々変化
 - ▶ 賃金と密接な関係がある (川口, 2011)
- 属性の変化とその他要因に賃金変化を分解

1.7 分解分析

- Sequential-KOB / Duncun Decomposition (Opacic, Wei and Zhou, 2025)
 - ▶ 直感的な会計的分解分析
 - ▶ 個表データがあれば、機械学習/Nonparametric 推定の手法が活用できる
 - ▶ 民間給与実態統計調査の公開済み集計値からも、部分的な分析が可能

1.8 会計式

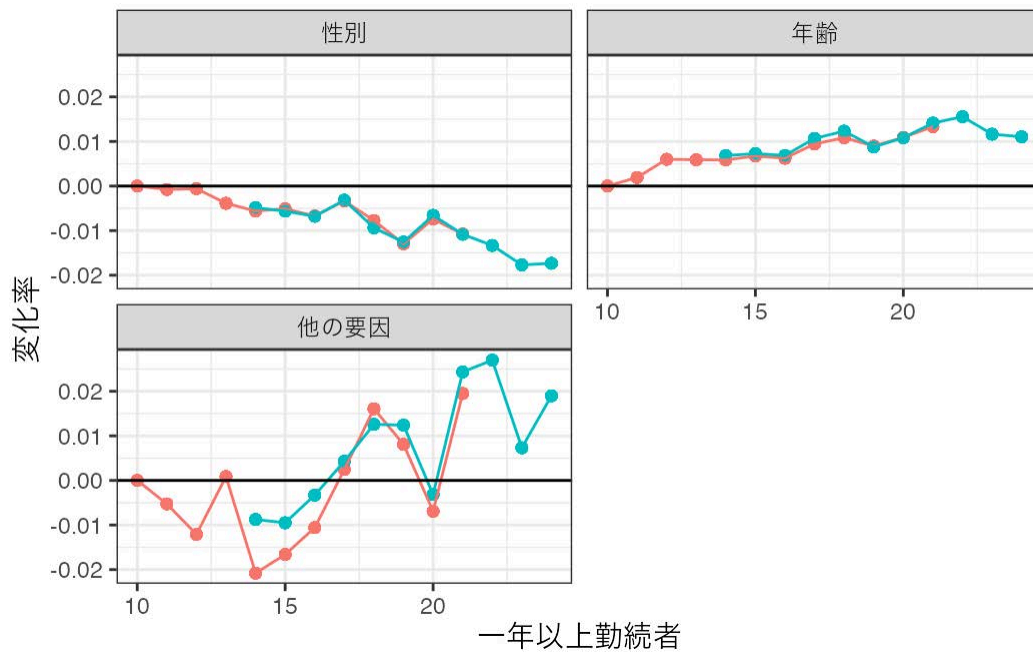
- t 年の平均賃金
 - = (t 年の性・年齢別平均賃金
 - $\times t$ 年の性別内での年齢分布
 - $\times t$ 年の性別分布) の総和

- 注: すべて就業者内での分布

1.9 分解分析

- $t_0 \rightarrow t$ における平均賃金の変化率
 - ▶ = 性別分布の変化
 - 性別の分布のみ、 t 年の水準に変化 (他は 2010 年に固定)
 - ▶ + (性別内の)年齢分布の変化
 - 年齢分布も、 t 年の水準に変化
 - ▶ + 他の要因の変化
 - 平均賃金も、 t 年の水準に変化

1.10 分解結果



1.11 まとめ

- 平均賃金の変化率について、
 - ▶ 年齢構成の変化は + の影響
 - ▶ 男女構成の変化は - の影響
 - ▶ 影響の大きさは、その他要因と遜色ない

1.12 補助分析

- 補論で、女性割合の持続的な増加、50代の増加(団塊ジュニア)を確認
 - ▶ 女性は平均賃金が低く、50代男性は最も高い傾向を確認
- 足元で、男性・団塊ジュニア世代による”人口ボーナス”が発生

1.13 補助分析

- 統計表 3-2,3-3 を用いた性別・賃金カテゴリへの分解結果(補論)から、
 - ▶ 男性については、低賃金帯(300万円以下)の減少、高賃金帯(1000万円以上)の増加の影響が大きい
 - ▶ 女性については、中賃金帯(400-600万円)の増加も影響が大きい
 - 高賃金帯の影響は少ない
 - “ガラスの天井”を確認

1.14 含意

- 女性労働者の低賃金傾向が、賃金上昇を抑制
 - ▶ 男女間賃金格差の是正は、引き続きの課題
- 現状の賃金分布を前提とすると、団塊ジュニア世代による”人口ボーナス”は、“人口オーナス”に変化すると予想される
 - ▶ 軽減するためには、高齢者雇用関連の制度変更や賃金カーブのフラット化が必要

1.15 先行研究: 出産²

- 出産の影響: Fukai and Kondo (2025)
 - ▶ 男性に比べて、女性の賃金は出産により大きく低下し、四年後にも残存
- 保育所: Fukai and Kondo (2024)
 - ▶ 認定保育所へのアクセスは、主に非就業化を減らす経路を通じて、所得が上げる
- 現状、より長期的な賃金・キャリアへの効果は不透明?

1.16 先行研究: 出産

- 50代において、男女間賃金格差は最も大きくなる
- 人事制度: Okuyama, Murooka and Yamaguchi (2025)
 - ▶ 出産が賃金へ当たる影響を企業内部の人事データを用いて検証
 - ▶ 短期的には労働時間の短縮、中期的(15年後)には、職位給への影響が支配的

²直近の研究を紹介しており、peer review

- ・メカニズム「労働時間の短縮 → 業績評価の低下 → 職位への影響」を示唆
- ・長期雇用における賃金上昇には、人事制度の見直しが必要

1.17 先行研究: 最低賃金

- ・低賃金帯に対して、直接的な影響を持ち得る
- ・Mori and Okudaira (2025)
 - ・女性について、最低賃金の効果は、benefit cliffs (“年収の壁”)により減退している
 - ・一部の労働者は基準値以下に所得を止めるために、労働時間を調整している
- ・Kitao and Mikoshiba (2022) : “配偶者”関連の制度が、女性の低い就業率・賃金に大きな影響を与えている

1.18 先行研究: 高齢者雇用

- ・高齢者雇用の促進政策: Kondo and Shigeoka (2017)
- ・年金支給年齢の引き上げ: Kitao and Takeda (2025), Nakazawa (2025)
 - ・労働供給の増加をもたらす
- ・賃金への影響は不透明?³

2 再就職市場

2.1 背景

- ・企業間労働移動は、賃金や労働生産性を高める重要な経路 (Schoefer, 2025)
- ・報告者: ハローワークの個表データをもとに、日本の転職市場の分析
 - ・民間人材マッチングサービスを用いた分析も計画

2.2 賃金分布の時系列変化

- ・2016-2019 年・フルタイムにおいて、求職者が希望する名目平均賃金は 4.96 %、求人が提示する賃金の上限は 3.94 %, 下限は 4.19 % 上昇
 - ・同期間における、名目平均賃金の上昇 3.50 % (民間給与実態統計調査) を上回る
 - ・Fukai et al. (2025) : 実効求人割合 (希望賃金を上回る賃金を提示している求人の割合)は安定的に推移
- ・提供されているデータが 2020 年 4 月までであり、足元の状況はよくわからない

³Nakazawa (2025) は貯蓄や消費への影響も分析

2.3 男女間格差

- 2019 年 4 月・フルタイムの男性の平均希望賃金 = 23.3 万円、女性の平均希望賃金 = 19.2 万円
 - ▶ Gap = 女性/男性 = 82.3 %
 - ▶ ハローワークにおいても、希望賃金格差 (Roussille, 2024) / Gendered job search (Basbug and Fernandez, 2025) が存在
- Fukai et al. (2024) : 年齢/地域/職種の中で、男女間職種分断が最も格差を説明する
 - ▶ しかしその他要因が、5 倍以上大きい
 - ▶ 中年層における格差が大きい

2.4 含意

- 2016-2020 年 4 月までのハローワークにおいて、希望/提示賃金は、就業者の賃金上昇を上回るペースで上昇していた
 - ▶ 希望賃金に、顕著な男女間格差があり、そのパターンは就業者における格差と類似

2.5 今後の研究課題

- 個表データを用い、異質性をしっかり考慮した、分析
 - ▶ 「団塊ジュニア世代の退職/再雇用」が迫る中で、全体平均値による議論はミスリードにつながる恐れが高い
- 足元や民間マッチングサービスデータを用いた入職プロセスの分析
 - ▶ 日本全体を代表するデータが想定しにくく、複数のデータからの結果を統合的に分析する必要がある

3 補論: 方法

3.1 観察される平均値

- 基準年 (2010)における観察される平均値は、

$$E[Y | t_0] = \sum_{X, G} (E[Y | t_0, X, G] \times f(X | t_0, G) \times f(G | t_0))$$

- Y = 実質賃金、 G = 性別、 X = 性別以外の属性、 t_0 = 時点(年)

3.2 Counterfactuals

- G の分布のみ t に変化: $\theta_G =$

$$\sum_{X,G} (E[Y | t_0, X, G] \times f(X | t_0, G) \times f(G | t))$$

- X の条件付き分布が t に変化: $\theta_X =$

$$\sum_{X,G} (E[Y | t_0, X, G] \times f(X | t, G) \times f(G | t))$$

3.3 Decomposition

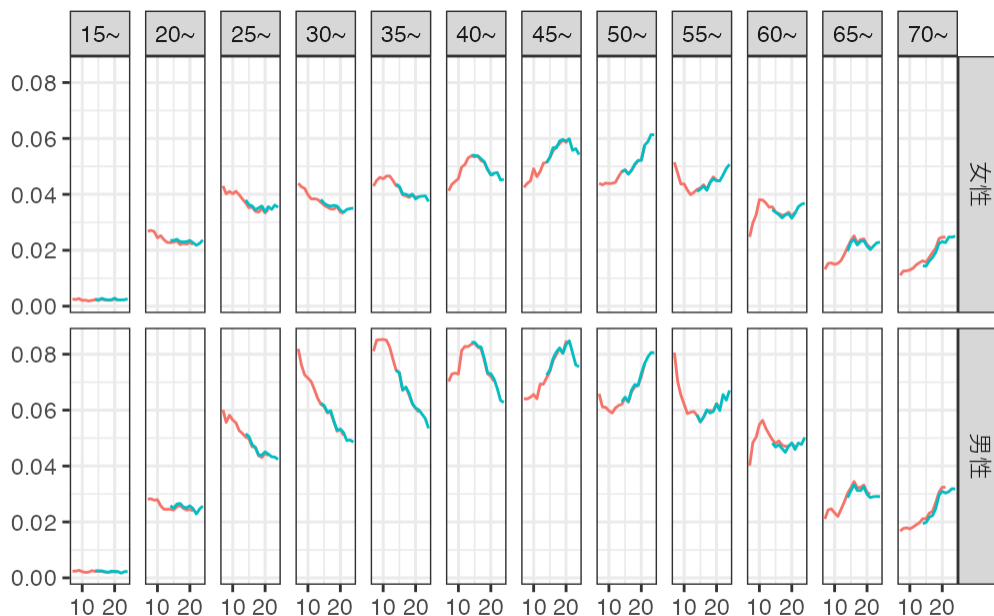
$$\begin{aligned} \bullet \frac{E[Y | t] - E[Y | t_0]}{E[Y | t_0]} &= \underbrace{\frac{E[Y | t] - \theta_X}{E[Y | t_0]}}_{E[Y|X,G,t]-E[Y|X,G,t_0] \text{に起因}} \\ &+ \underbrace{\frac{\theta_X - \theta_G}{E[Y | t_0]}}_{f(X|G,t)-f(X|G,t_0) \text{に起因}} + \underbrace{\frac{\theta_G - E[Y | t_0]}{E[Y | t_0]}}_{f(G|t)-f(G|t_0) \text{に起因}} \end{aligned}$$

4 補論: 性別・年齢分解

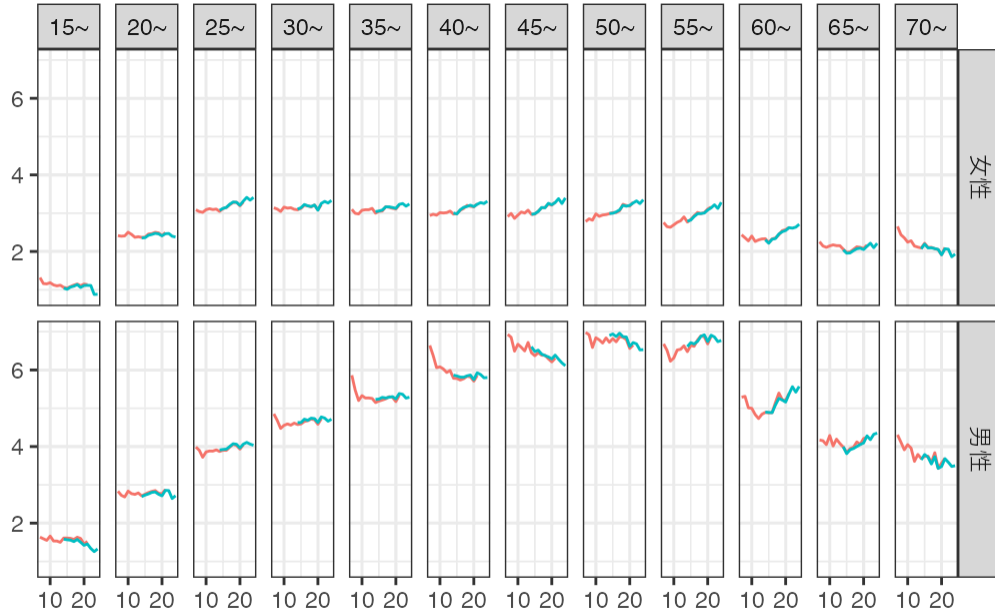
4.1 定義

- $G =$ 性別
- $X =$ 5 歳刻みの年齢グループ

4.2 $f(X, G | t)$



4.3 $E[Y \mid t, X, G]$



5 補論: 性別・賃金カテゴリ分解

5.1 定義

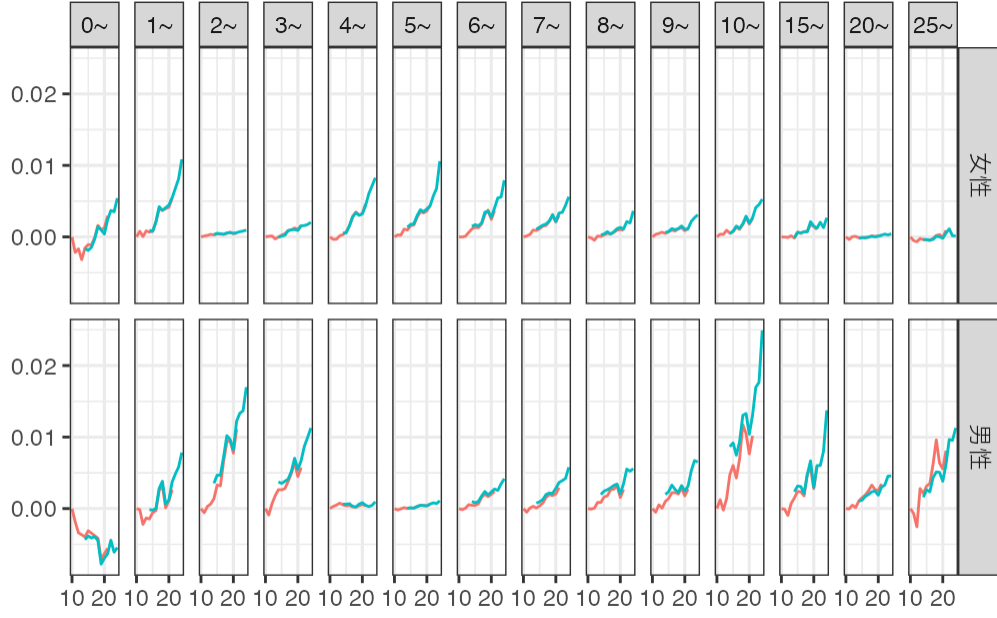
- $G =$ 性別
- $X =$ 年収グループ (100 万円)

5.2 Detail Decomposition

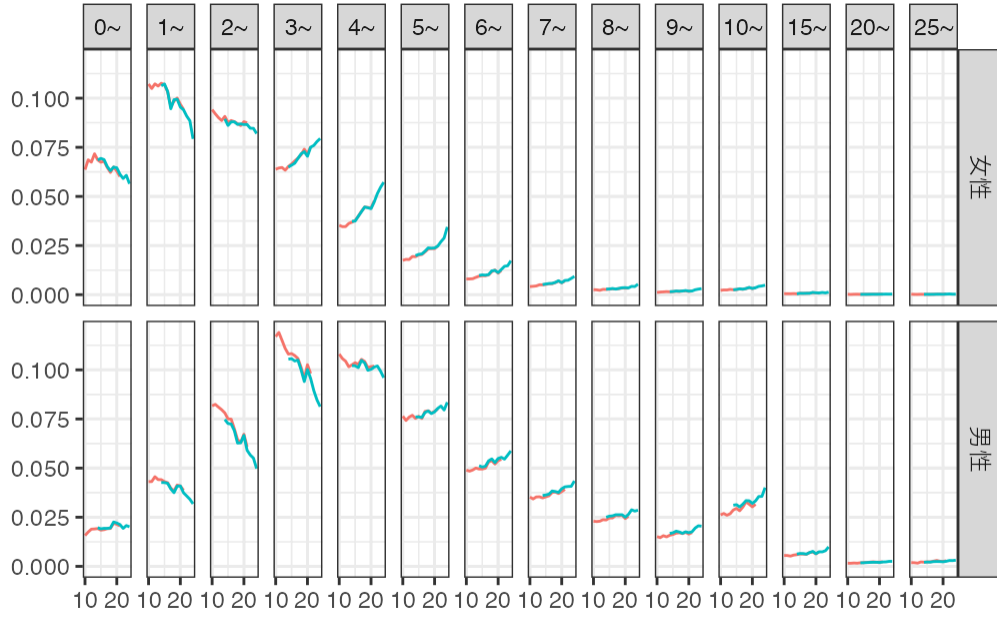
- 「 X の条件付き分布が t に変化」した影響を、 X ごとに分解

$$\begin{aligned} & \frac{\theta_X - \theta_G}{E[Y \mid t_0]} \\ &= \sum_{X, G} \frac{E[Y \mid t_0, X, G] - E[Y \mid t_0, G]}{E[Y \mid t_0]} \\ & \times (f(X \mid t, G) - f(X \mid t_0, G))f(G \mid t) \end{aligned}$$

5.3 Detail Decomposition



5.4 $f(X, G | t)$



5.5 Reference

Bibliography

- Abraham, K.G. and Kearney, M.S. (2020) “Explaining the decline in the US employment-to-population ratio: A review of the evidence,” *Journal of Economic Literature*, 58(3), pp. 585–643.
- Basbug, G. and Fernandez, R.M. (2025) “Gendered job search: An analysis of gender differences in reservation wages and job applications,” *ILR Review*, 78(1), pp. 217–239.
- Fukai, T. and Kondo, A. (2024) Access to Formal Childcare for Toddlers and Parental Employment and Earnings.
- Fukai, T. and Kondo, A. (2025) Parental Earnings Trajectories around Childbirth in Japan: Evidence from local tax records.
- Fukai, T. et al. (2024) Gender gap in the ask salaries: Evidence from larger administrative data.
- Fukai, T. et al. (2025) The wage-mismatch index: A new indicator of labor demand in the job search market.
- Kawaguchi, D., Kawata, K. and Toriyabe, T. (2021) “An assessment of Abenomics from the labor market perspective,” *Asian Economic Policy Review*, 16(2), pp. 247–278.
- Kitao, S. and Mikoshiba, M. (2022) “Why women work the way they do in Japan: Roles of fiscal policies,” Available at SSRN 4054049 [Preprint].
- Kitao, S. and Takeda, N. (2025) “Japan's Aging Workforce: Determinants and Outlook,” *Asian Economic Policy Review* [Preprint].
- Kondo, A. and Shigeoka, H. (2017) “The effectiveness of demand-side government intervention to promote elderly employment: Evidence from Japan,” *ILR Review*, 70(4), pp. 1008–1036.
- Mori, Y. and Okudaira, H. (2025) “Higher Minimum Wage, Stagnant Income? The Case of Women's Work Hours in Japan,” *The Case of Women's Work Hours in Japan* [Preprint].
- Nakazawa, N. (2025) “The effects of increasing the eligibility age for public pension on individual labor supply: Evidence from Japan,” *Journal of Human Resources*, 60(1), pp. 102–128.
- Okuyama, Y., Murooka, T. and Yamaguchi, S. (2025) “Unpacking the Child Penalty Using Personnel Data: How Promotion Practices Widen the Gender Pay Gap.”

Opacic, A., Wei, L. and Zhou, X. (2025) “Disparity analysis: a tale of two approaches,” *Journal of the Royal Statistical Society Series A: Statistics in Society*, p. qnaf8.

Roussille, N. (2024) “The role of the ask gap in gender pay inequality,” *The Quarterly Journal of Economics*, 139(3), pp. 1557–1610.

Schoefer, B. (2025) *Eurosclerosis at 40: Labor market institutions, dynamism, and European competitiveness*.

川口大司 (2011) “ミンサー型賃金関数の日本の労働市場への適用,” *現代経済学の潮流*, pp. 67–98.

川口大司 (2013) “賃金,” *日本労働研究雑誌*, 55(4), pp. 14–17.

玄田有史 (2017) *人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか*. 慶應義塾大学出版会.

総務省 (2021) *賃金関連統計の比較検証に関する調査研究*.